

鍵盤に魔法を



調律師 鈴木均が語る

いつも聴いているホールなのにピアノの音が全然違うな、と感じることがあると思います。客席からは見えにくいですが、それはピアニストが足で踏むペダルの効果かもしれません。うまくピアニストは指の動きもすごいけど、ペダルの操作もすごいんです。ペダリングによって音色はものすごく変わります。

ピアノには通常、右、左、真ん中と三つのペダルがあります。それぞれの裏側に突き上げる棒があり、車のアクセル、ブレーキ、クラッチと同じで「すぐに利いてほしい」「ちょっと甘くしてほしい」といった希望を毎回確かめながら調整ねじを加減します。やはり数値では言えず、奏者に

音量、響き ミリ単位で使い分け

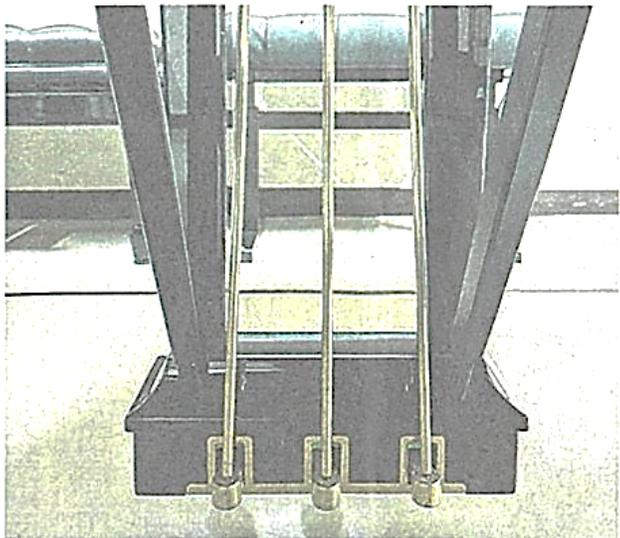
よって目指すイメージも違うので正解はありません。右を踏むと鍵盤から指を離しても響きが残り、踏み換えて音をフワッと客席側に放り投げることができません。一流の奏者はON/OFFでなく、ちょっとだけ踏んだり、ぱっと大きく踏んだりして微妙に使い分け、音を揺らすビブラートのように聞こえる複雑なこともやっています。

左ペダルを踏むことで音量、音色を変化させ、聴衆の耳をグッと引き寄せます。左を踏むと弦を打つハンマーが右に移動して打たれる弦が減るので、音量が小さくなります。ハンマーに付いているフェルトの柔らかい部分に当て、音の響きを変えることも。ピアニストはミリ単位の使い分けで綾を演出しているんですね。真ん中は特定の音を伸ばしたい時。あまり使われない機能ですが、時には効果的に使う奏者もいます。

スピードを競うレーシングドライバーは、カーブを速く回るためにブレーキをかけながらアクセルを踏むそうです。ピアニストにも一見矛盾するような要望があり、調律師が確認しながらその都度対応します。

千変万化に音を変えていくトップ奏者と、そうでない奏者の違いは意外にもペダリングにあるのです。次回は、そんなペダリングの名人の話をご紹介します。

ペダルの裏側にあり、動きを突き上げる棒。ねじで調整ねじがある



三つのペダル